

Y's Men International
Y Service Clubs International

YMI

WORLD



“To acknowledge the duty that accompanies every right”

Only for private distribution to members

YMI ワールド
2017-2018 No.1
日本語版



国際会長から、国際議会の審議 (国際憲法)、TOF-GPF の最新情報：ユースの可能性と生計選択の強化、行動するユース：ラスベガスで「希望のシェルター」に時間 (とお金) を寄付、インド地域ユースプロジェクト：「子どもを慈しもう」、環境：地球規模で考え、地域で行動 - 地球の温暖化ではなく、地域の公害について話そう、総括：各地域の多様性を賛美して、バラントイン賞受賞者：ウェイン・スミス氏、協定締結：YMI - YMCA 間の区レベルでの協力、会員数についての懸念：ベテランワイズが「変革」について考える、魂の真言：軍事的対応の代案

読者の皆様



「ベガスで起こったことは、ベガスに置いていく。」これは同じ名前の2008年のハリウッド映画(訳注: “What happens in Vegas, stays in Vegas”邦題「ベガスの恋に勝つルール」)で有名になった言葉で、これはラスベガスの観光産業の有名なキャッチフレーズの「ここで起こったことは、ここに置いていく。」に基づいています。

しかしながら、この言葉は、華やかで魅力にあふれ欲望に満ちていることで有名な娯楽の都市で先日、国際議会が開催された我々の運動にはあてはまりません。確かに楽しいときを持ちました。しかし、4日間にわたる議会で我々は多くの仕事をこなしました。この号には重要な決定の幾つかが掲載されています。特に我々の組織の立て直しに関わること、すなわち我々が直面している困難な現実に照らしての我々の憲法の再検討についてです。憲法審査委員会委員長のシルビア・レイエス・デ・クロチは不合理な箇所や古風な表現を指摘するのに全力を尽くしました。彼女は不必要なカンマを削除する修正まで推奨しました!それほど彼女は細心の注意で精査をしたのです。国際議会における素晴らしい仕事に対して、さらにこの号の中で、世界中の読者のために要点を述べてくれたことに深く感謝いたします。

国際議会に続いて、アメリカ地域とカナダ/カリブ海諸国地域の合同地域大会が開催されました。このイベントは大変心のもったもので、これらの地域のメンバー間だけでなく、国際議会の後に残って傍聴した者との間にも友情が築かれました。ヘンリー国際会長とジョアン直前国際会長は、この号の中のそれぞれのメッセージの中でこのイベントを思い起こしています。

注目された課題のひとつは、アジア、韓国、インド地域において会員数が増えているのに対して、かつて「強い」と言われていた地域、すなわちアメリカ、カナダ、オーストラリア、そしてある程度においてヨーロッパにおける会員数の減少です。クラブをチャーターするのに必要なメンバー数を

表紙: カナダ・ミッドランドクラブのフェイスブックから。「レイプ・性的暴行・ジェンダー暴力廃絶のための国際行進」にメンバーが参加。ミッドランドの Huronia 遷移ホームへの寄付金を集めた。

ワイズメンインターショナル ワイサービスクラブズインターナショナル公式誌

国際本部: Ave Sainte-Clotilde 9, CH-1205 スイス
国際編集長: コシー・マシュー
日本語版翻訳グループ: 田中博之(委員長、東京多摩みなみ)、青木一芳(千葉)、今城高之(横浜つづき)、利根川恵子(川越)、太田勝人(東京世田谷)、倉田正昭(京都)、谷川寛(大阪センテナリアル)、谷本秀康(東広島)
印刷: (株)三浦印刷所 三浦克文(岡山)

減らす提案が、問題を解決する基礎となることが期待されています。会員数の減少の主要な要因として高齢化が、我々の運動に若者を惹きつけられないことと合わせて挙げられました。この号でオーストラリアのロブ・グリーンは、彼のYMIメンバーとしての長い年月の背景を述べています。

筆をおく前に、私はアメリカ地域の元区理事のティム・シングレタリーに地域大会において、ワイズ運動の中でのブリテン、ニュースレターの重要性を説明する機会を与えていただいたことに感謝しなければなりません。新しいメンバーを惹きつけるためのPRツールとして用いることができると私は信じていますが、ブリテンに対して新たな興味が持たれたように見受けられました。ご多幸を祈って
ワイズリー
コシー・マシュー



緊急速報: 我々が滞在したホテルの前庭からのラスベガス中心部の模様。マンダレイ・ベイー近年の米国史上で最も酷く、卑劣な銃撃の現場—は、右側の高層ビル。殺害された方々の家族、友人に心からの哀悼を捧げ、怪我をされた方の早い回復をお祈りいたします。

私の本棚から

人生は贈り物だから:) デイーシャ著

彼は10歳で、車椅子での生活を余儀なくされています。でも、それが彼のアイデンティティーではありません。世界にとって、彼は、6人、12人、60人で対戦するチェスを発案したインドの最も若い特許保持者です。

皆さんはカリギル戦争で死んだとされるがインドでの最初の「ブレッドランナー」の陸軍少佐のことを聞いたことがありますか?

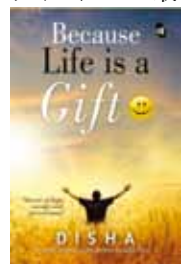
両手のない女性がインドを代表する画家のひとりであることを考えられますか?

障がい者を見たとき皆さんが最初に思うことは何ですか? 憐み? 同情?

「人生は贈り物だから」で紹介されている15人の障がい者の成功の物語は、別のことをあなたに思わせるでしょう。彼らが彼らの夢を達成するために戦ってきたことに対して、誇りが憐みや同情の気持ちに置き換わることでしょ。

この本は、彼らの勇気、生きることへの情熱に対しての賛辞です。彼らは、不可能についてのあなたの観念に挑戦します。彼らは、人生を精一杯生きようと皆さんを鼓舞することでしょう。なぜなら、人生は真に贈り物だから。

(Goodreads Review)





ワイズダムの友人へ



国際会長としての任期がすでに2か月以上経ちました。様々なことをなさねばならない、単に忙しかっただけの月日ではなく、魅力的で実り豊かなときでした。

私の国際会長任期は7月1日に始まり、まさにその日に私は、ロシアのサンクトペテルブルグにロシア区の区大会への出席のためにいました。私にとって、この日は、感動的でした。私は2009年から2016年までヨーロッパ地域におけるロシア区の助言者(Mentor)を務め、ロシアへの訪問とロシアの友人にワイズダムのことを説明するのに長時間を費やしました。助言者としてのこれらの年は、私にこの大きな国で親しい友達がたくさんできたことに加え、ロシアのYMIメンバーとロシアの文化について多くのことを教えてくれました。

旅行は、次期国際会長および国際会長の職務の重要な部分を占めています。ロシアへの訪問の数日前に私は、コーチでのインド地域大会に参加するためにインドにいました。そこでは光栄なことに、インド地域会長のジッシン・ジョイ・アラファットの就任式を司りましたが、これも素晴らしい経験でした。

サンクトペテルブルグの後、ヨーロッパ地域大会に参加するためにラトビアのツェーシスに移動しました。スポーツ大会も行われたちょっと珍しい、魅力に富んだ大会でした。大会は、元地域会長のイネタ・クルミナと彼女のチームの働きによって大成功でした。

7月の後半には米国のラスベガスを訪れました。そこでは国際議会が開催され、また、アメリカ地域とカナダ/カリブ海諸国地域の合同の地域大会も開かれました。ここで私は、元国際会長のフィン・ペダーソンの司式で公式に国際会長に就任しました。

そして最後に、9月の初めに韓国南部の美しい島のチェジュ(済州島)で行われた地域大会に参加するために韓国地域を訪問しました。ここでもまた、ホスピタリティーに溢れた、アジアにおけるエクステンションに積極的に働いている、ひたむきな国際協会のメンバーに会いました。私の後任であるムン・サン・ボンが住んでいるヨス(麗水)も訪れ、一緒に来年8月に開催される2018年国際大会の施設を見ました。

これらの旅で出会った方々に感謝申し上げます。皆さんすべてフレンドリーなワイズのリーダーで、私に励ましと素晴らしいホスピタリティーを見せていただきました。私はこれら

の旅で、私のスローガンの言葉「国境なき友情」を体験しました。

旅の他に、国際会長として行わなければならない幾つかのバリエーションに富んだ管理的な業務があります。コンピュータ、eメールそしてスカイプ/GoTo Meeting(GTM)のおかげで、世界中の役員やメンバーの皆さんと定期的なコンタクトを維持することができます。ここノルウェーの私の家にいながら、私はジュネーブの国際本部、チェンマイのサテライトオフィス、インド、カナダ、韓国のリーダー達と連絡を取り合うことができます。これは25年前の国際協会とは全く異なる業務環境であり、旅費を大幅に削減できます。

国際協会の財政状況が数年前の赤字状態から、今や黒字に転換していることを喜びを持ってお報せいたします。国際議会において、この余剰金の一部を様々な地域での管理的業務を強化するために使うことを決めました。また、ポータルバズがより多くの地域で機能していることも

国際協会の財政状況が数年前の赤字状態から、今や黒字に転換していることを喜びを持ってお報せいたします。

嬉しく思います。これによって、国際本部職員の業務量を減らすことができ、また、いくつかの管理業務を簡略化することができます。しかし、幾

つかの区や地域ではまだやらなくてはならないことが残っています。奮闘されている区、地域が管理業務においてポータルビズを使い始めることを願っています。

2022年は急速に近づいていますが、「2022 and Beyond」タスクフォースが熱心に、真剣に働いていることを嬉しく思います。時の過ぎるのは早く、私たちは2022年に到来する100周年およびその祝いの後の年月について準備を行う必要があります。私たちは生産的であることが必要で、将来の計画を立てなければなりません。また、来るべき将来に責任を担い、私たちの素晴らしい運動の先頭に立つリーダーを探し、育てなくてはなりません。

「ともに、光の中を歩もう」は国際会長としての私の主題です。私の任期の間に、世界中のYMIのメンバーがより良い行動を取り、同じ方向に向かって歩くことを願っています。

ノルウェーから、皆さんの、コミュニティと貧しい人々に対しての働きが、私たちの運動に、世界中のクラブに、私たちメンバー一人ひとりに意味をもたらせているということを感じていただけることをお祈りします。

神様の祝福がありますように。世界中のどこにいても神様が私たちを見守ってくださいますように。

ノルウェー・アスケー

ヘンリー・J・グランドハイム

2017年9月

2017/2018 国際会長

立て直しに向けて

国際議員、国際憲法の重要事項を審議

2017年度国際議会は、調和のとれた、簡明で持続性のある会員組織を目指して、国際憲法の改正を可決しました。改正点は以下のとおりです。

●「3名未満のグループはクラブとは認められない。」従って、「会員1名のクラブ」は在り得なくなる。国際憲法では「グループ」に触れているが、今回このグループは最小限3名の会員が必要であると明確に規定された。メンバー数の少なくなったクラブの消滅を宣言するという区としての手続きは引き続き必要である。

●「国際加盟を申請できるクラブの最少会員数は5名とする。」YMIは多文化をもつ世界的組織であり、文化の違いを認めながら共存できれば私たちはより豊かになる。クラブの会員数の多寡については地域によって認識の差があるので、会員数の標準は任意とする。改正された新しい規定では5名以上の会員をもって新クラブの国際加盟が認められるが、会員数15名以上での加盟を目指していきたい。これは会員数の停滞/減少傾向に打ち勝つという至上命題の一部でもあり、国際役員選挙等の投票権が会員数15名以上のクラブに与えられる点(次項)にも対応している。

●活動中のクラブが国際役員選挙・国際議会決議事項の批准等の投票権を持つためには、従来どおり会員数が15名以上必要である。

●会員数15名未満のクラブに、申請によって投票権を与えるとしてきた規定は廃止する。

●次期国際会長/国際会計候補者は、投票権のあるクラブに所属していなければならない(本項は、国際憲法の改正であり、クラブによる国際投票での承認が必要)。



国際憲法の改正を提案する憲法審査委員会のシルビア委員長と補佐するジェームズ・オレ国際本部職員

左記のルールは全ケースに当てはまりません。a.「活動中のクラブ」とは、直近の3回の半期国際会費が全会員分納入されていること。b.国際投票権は「活動中のクラブ」でありかつ同期間に会員数が15名以上であることです。

この新しい規定群は、従来の指針のいくつかを打破し、現在緊急の課題である慢性的な会員減少傾向を阻止して会員増強へと向かわせる新たな一歩となります。クラブや区がこの改正をさっそく実践するならば、この“発想の転換”はよくまとまった動きを見せ始め、皆が渴望している変革を生み出していくことでしょう。まずは会員5名のクラブを設立して国際協会に加盟し、そこから目に見え易い奉仕活動と新人の招き入れによってクラブを成長させましょう。会員が15名になれば国際の投票権を持つことができるのです。

シルビア・レイエス・デ・クロチ(憲法審査委員会)

活動中のクラブの批准投票を要する 2017年度国際議会で可決された国際憲法の改正条項

- ・第3条(構成会員) 第2項の青年会員の規定は削除する。(新ガイドライン413の中に移す。)
- ・第5条(行政役員) 第1項内の項目順を整理し、区役員については各区の定款に委譲する。これまでの「1年任期」の規定は廃止する。
- ・同 第2項A 国際役員候補者所属クラブの規定免除の部分は削除する。
- ・同 第4項に追加 次期国際会長は次期の事業主任・委員会を早期に指名し、次期に備える。
- ・第13条(解散) 解散の手続きをスイスの税法に合うように書き直す(非営利の免税特権を確保)。
- ・第14条(改正) 憲法改正に対する投票権も他の国際投票と同じ規定(会員数15名以上のクラブにのみ投票権)が適用される。(現在は「活動中」のクラブなら会員数に関係なく投票権がある。)



国際憲法第 13 条の改正には 早急の対応が必要

国際協会が事務所を置いているスイスの税法改正により、国際憲法第 13 条 (解散) を改正する必要に迫られています。税務当局からの免税特権更改通知によりこのことが明らかになりました (現在の 10 年間の免税特権は 2018 年に期限となります)。

ワイズメンズクラブ国際協会は「非営利団体」の認定を受けています。そのため保有する全財産は、本協会が解散する場合、その会員や創設者に分配されず、同様の非営利公益団体に移管されることになります。この措置は免税特権を持つ在ジュネーブのすべての非営利団体に適用され、当局からの指示に従って履行せねばなりません。指示されている条文に手を入れる余地はほとんどありません。

大切なのは、第 13 条を新税法に合わせて書き改めても、この条文が持っていた目的と意味は変わらないということです。

解散に至る行程も変わりません。上記の移管先と考えている信託受益者は世界 YMCA 同盟のままです。どこが受託団体になるにせよ、私たちの運動の原則と目標を尊重してもらえると信じます。

国際議会ではこの改正が全会一致で可決されました。本改正が効力を持つには、「活動中のクラブ」からの投票で 3 分の 2 の賛成 (承認) が得られることが必要です。



国際議会での表決

BF グラント 2018/19

BF 支出委員会委員長のトール・バックマンは、BF 文化交流代表と BF 国際大会派遣代表の募集要項を 8 月 21 日に区理事あてに送りました。応募は従来の書式 (BF2、BF3) によらず、オンラインでお願いします。詳細は、<http://ysmen.org/bf-grants> をご覧ください。応募締切は 2017 年 12 月 31 日です。新方式での申請のみが受け付けられます。



審議のかじ取りをする国際執行役員たち

承認が得られなかった場合、何が起きるか?

スイスの税務当局から要請された左記の改正が、承認されなかった場合の負の衝撃は甚大です。ワイズメンズクラブ国際協会は、来年 (2018 年) 以降、スイスの国税局と州税局から課税され、その結果、私たちの予算は影響を受け、使命を果たすための資金は縮小されることになるでしょう。運動全般、諸事業、奉仕活動、そして事務局運営の予算の原資が減ることになるでしょう。

免税特権を更改しないと、在ジュネーブの組織として本協会は見直しを迫られる可能性があります。課税可能性や課税の対象・範疇を決定する作業を通じて、本協会の運営、申告の方法をスイスの法律に従って変更することもありえます。

留意点: 今クラブの批准を待っている上記改正は、国際憲法の目的と意味を変えるものではありません。解散の手順・手続きは、本来の意図から見れば何ら変わるものではないのです。

以上のことを念頭に置いて、皆様のクラブが第 13 条の改正の批准投票に臨んでくださるよう願います。国際協会の存続がここにかかっています。

免税特権に関するこの投票について、質問・意見がおありでしたら、憲法審査委員会の私、シルビアまでご連絡くださるようお願いいたします。シルビア・レイエス・デ・クロチ

TOF-GPF プロジェクト

皆様の献金によりラスベガスでの国際議会で 9 つの新規 TOF 支援事業を承認することができました。昨年度の献金は 181,072 スイスフランになりました。ユースエンパワメント (権限移譲) と自分自身で持続していく将来の創造が、個人のそしてグローバルなレベルでも潜在的な焦点になっています。

1973 年の TOF-GPF 創始以来、総計 6,482,100 ドルが世界中の YMCA、コミュニティプロジェクト、緊急案件に役立てられています。今日、16 の国と地域において 9 つの新規プロジェクトと 25 の継続プロジェクトが TOF-GPF で支援されています。

ユースの可能性と生計選択の強化

YMIでは毎年、クラブやYMCAを通じて、社会的・経済的効果が永続するよう幾つかのプロジェクトにささやかな支援金を拠出しています。ここでは、若者たちの可能性と、彼らの生計選択の強化を目指すプロジェクトに焦点を当てます。以下は、最新情報ですが、多くのプロジェクトは終了宣言まで継続中です。—編集者

東エルサレムのユース「潜在力」開発



東エルサレムのYMCAは、この不安定な地域のユースとの活動を継続しています。

様々なプログラムへの参加者数が増えると同時に、プロジェクター、ゲーム類、スポーツ用具など、備品も増えてきました。最新のワークショップや行事には、レクリエーションキャンプや、この地域の異なったコミュニティに対する理解促進のための教育旅行、テーママラソン、クリスマスパーティーなどが含まれます。

また、地域の若者の行動や理解、責任感などの育成に関わる様々なリーダーシップ・トレーニング活動があり、YMCAのコーディネーターが参加支援しています。

マダガスカル農青年の社会経済学的回復力の向上

雨期の遅れや2004年以降最強のサイクロン“Enawo”の襲来など、幾つかの好ましくない気候状況にもかかわらず、ロンドンの国際Y-ケアは、マダガスカルYMCAの協力により、プロジェクト目標を達成しました。

現在、250名を上回る、脆弱な若者たちが、様々な生活技能の向上、起業精神の向上、職業訓練を通じて雇用可能性ならびに収入獲得能力の向上に努めています。これらには、牧畜、漁業、林業が含まれます。107名の若者が5つの共同農場に入り、Ambatobe、Carion、MoramangaのYMCAにより設立された3つのインフォメーションセンターを通じて支援が続けられています。これらのインフォメーションセンターは、若者たちの市場参入ならびに機会創設に役立っています。

私たちは常に、TOF-GPFプロジェクトの受益者の言葉に喜んで耳を傾け、プロジェクトの最終報告書をワクワクしながら読みます。以下は、我々の基金により支援されている代表的技術訓練の恩恵を被った、Anjepyの若者リヴォのコメントです。



「友達の子からYMCAのことを聞き、自分自身でも、地域の展示会でYMCAのスタンドに行きました。僕は、YMCAの勧めが気に入って、2016年9月にプロジェクトに参加し、陶芸技術と生活技術の2つのグループ訓練を履修し、例えば、如何に健康を保つかなど、多くの技術を習得しました。今までに3つのセッションを終了し、まだ学び続けています。教官から、例えば、鶏に対して抗生物質や他の薬剤を如何に使うかなど、様々なことを学ぶのは大変助けとなります。僕が履修し始めた、生活技術の単位は、常に身近なものであり、ビジネスプラン開発など、起業精神に関する講義はとても有用なものです。50羽の鶏を飼っていて、今、月に80,000ア

リアリ(約20ポンド)の利益を上げています。でも僕は、多角化し、鶏が生む卵でビスケットを作ってもいます。僕はオープンを持っていて、それでビスケットを焼き、雑貨屋に卸しています。これにより、月75,000アリアリ(約18ポンド)の利益を上げています。僕は、これらを始めたばかりですが、明らかに僕の収入は増え、将来に希望が持てるようになりました。僕はYMCAが、養豚等他の訓練を提供してくれるのを知っています。僕は、更に拡大し、多角化できるよう、それもやりたいと思っています。僕は、最終的には、養鶏業者に対する、飼料や雛鳥の契約供給者になりたいと思っています。





モンゴルの「健康的な将来:青少年開発プログラム」

当初のトレーニング先としていたいくつかの場所が、試験期間中のため訪問できなかった、あるいは教室が足らなかった等により中止となりましたが、プロジェクトのコーディネーター達は、新たに他の学校を探したり、代替の会議場所を探したりなどし、性感染症/エイズの予防教育を500人の学生たちに行うという目標を達成し、実際には、受講者が515人に上りました。このことを喜ぶとともに、この、10代の若者たちに、性的感染症に関する情報を提供するプロジェクトが成功裏に継続することを願おうではありませんか。



ネパール 「助産婦になるための少女への教育」



我々は、スウェーデン ヴェステロースのワイズが、ネパールの地元のNGO「ネパールのストリートチルドレン協会」と協働したこのプロジェクトの2冊目の報告書を受け取ったことを大変喜んでしています。すべての目標は期間内に達成されました。そしてこれは、本プロジェクト最初の「熟練した助産」を成功裏にフォローするもので、現在は、9月の最終試験で3年目の学生たちが正規の看護師になるのを見守っており、また、1年目の学生たちに、英語を教えるなど必要な他の手助けを行っています。

ハイチでの希望再構築

ハイチのデカドーム設置からほんの数週間の後、私たちは、ハリケーン・マシューがその建物を破壊したとの話を聞きました。このような悲しい知らせにもかかわらず、プロジェクトをあきらめず、誰にもいませんでした。この、妥協のない決定とハイチ YMCA メンバーの献身および数々の支援者のおかげで、プロジェクトは積極的に、現在の状況に適合するよう改装されました。それ以来、プロジェクトリーダー達は、ハリケーンの後始末の清掃に従事しただけでなく、アメリカから大学生のグループを呼び寄せ、地元の若者に対するリーダーシップ訓練にあたらせ、更には、先住民の家族が必要とする果物や野菜を提供する地域の農園の世話を行いました。望みは、この地域農園を拡大すること、特に環境問題に関心を持つ人々に対する訓練の機会を発展させることです。



ミャンマー 「カチン族麻薬更生」



最近、YMCA アジア太平洋同盟(APAY)のコーディネーターからの満足すべき報告書を受けとった YMI は、プロジェクトの最終資金の送金を行いました。報告書には、現行の6名の受益者の過去4か月の状況が伝えられていました。報告書には、6名全員が、準備された職業訓練を継続しており、麻薬を絶ち、非行のない生活を営んでいるとの満足すべき様子が見て取れます。我々は、このプロジェクトのおかげで、彼らが間もなく生産的な社会メンバーとして復帰することを信じています。新たなプロジェクトの完了を祝して!

ワイズ・ユース・メンバーがラスベガスで「希望のシェルター」に時間(とお金)を寄付

アメリカ地域とカナダ・カリブ海諸国地域の合同地域大会が8月上旬にアメリカ・ネバダ州ラスベガスで開催され、同時にユースサミット会議も催されました。この会議の目的は、これら2つの活発な地域のユース代表団の間にすでにある協力の土台をさらに強めることでした。この会議の一環として、代表団のメンバーは、文字通り「希望のシェルター」と言うべき奉仕を提供する機会に恵まれました。

「希望のシェルター」は、1970年に、ホームレスで飢えた人々を助けることが神から与えられた使命と感じた、牧師と6人のビジネスマンによって設立されたラスベガス・レスキュー・ミッションのことです。礼拝堂、キッチン、2〜3人しか収容できないシェルターを含む小さな店舗の建物から始まったシェルターも、今は市の約2区画を占めるほどになっています。レスキュー・ミッションは、今では何百人もの男女や子どもを食べさせ、保護し、世話をすることができるほどになりました。

ユースサミット会議に出席したおよそ12人の代表は、レスキュー・ミッションの事業のために資金を調達する助けとなるリサイクルショップを開設するお手伝いをしました。われわれの代表団はアメリカ、カナダ・カリブ海諸国からのメンバーで成り立っていたのですが、彼らは半日、衣類や家庭用品を整理したり、新しい友人を作るのを楽しんだり、おいしい昼食を共にしたり、レスキュー・ミッションの重要な仕事について学んだりして過ごしました。

レスキュー・ミッションは、最小限のスタッフで運営され、貧しい人々に毎月3万食を提供しています。「ボランティアはレスキュー・ミッションの心と魂です。」と開発ディレクターのジョン・フォーガルは言っています。また、「時間の贈り物は貴重です。」とも述べ、さらに続けて「助けを必要とする誰かがいて、「ありがとう」と言い、助けを必要とする誰かを助ける術を知っている人がいて、「ありがとう」と言

う時、この2つのことが起こった日は、偉大な日になると確信します。」と述べています。我がワイサービスクラブの代表団は、奉仕を通じたフェロウシップを体現し、私たちは彼らを誇らしく思いました。地域のメンバーに、(さまざまな協議を含んだ国際議会を終えた)多くの国際役員メンバーも加わり、この会議はラスベガスで開会しました。

ワイズの協力精神が、このユニークで素晴らしい週末を際立たせることとなりました。地域大会参加者に寄付を募ったところ、600ドルが集まり、レスキュー・ミッションに寄付されました。これはグループ奉仕事業のとても良い機会であり、地元のホストに大変喜ばれました。

より詳しくご覧に成りたい方は、アメリカのワイズ・ユースのフェイスブックをご覧ください。

太平洋南西部 元理事 ティム・シングレタリー



マット・ロドリゲス(アメリカ地域・ユース代表)が寄付金を贈呈



まだまだたくさんの贈り物を仕分けなければ・・・。



レスキュー・ミッションで、贈り物を分配するための整理の仕事をしているユースメンバー

STEP for ALL
A programme of Y's Men /
Y Service Clubs International
in collaboration with
Time of Fast-Global Project Fund
and
Brotherhood Fund
For details: www.ysmen.org



インド地域ユースプロジェクト: 「子どもを慈しもう」

2年間続けて、インド地域のユースは、インドのワイズメンによって出資・支援されたプロジェクト、「子どもを慈しもう」の旗の下、活動を続けてきました。ユース10人が、8月に、コーチ郊外にあるアダルシュ慈善トラストを訪問する機会を得て、子どもや特別な配慮が必要な人々と過ごしました。また、私たちはそこで、文房具を寄付しました。

アダルシュ慈善トラストは、3ヶ月から26歳の年齢層の286人におよぶ子どもと青年に奉仕をしています。トラストは、障がいをもった人々のリハビリを行っています。特に

脳傷害を患う小さな子どもや、自閉症、ダウン症、脳性マヒ、その他感覚運動小児期発達障害の症状を示す子どものリハビリに関わっています。当学院の副校長から概要やトラストが提供している授業の内容について説明がありました。

このような障がいのある子どもたちの集団と交流するという滅多にない機会となりました。子どもたちはうれしそうに歓声をあげ、私たちを大歓迎してくれました。彼らはわれわれと会って興奮し、文房具を受け取った時にはさらに喜んでいました。私たちはすべての子どもたち一人ひとりとことばを交わしました。中には素晴らしい才能を見せてくれる子どももいて、心からの拍手を送りました。

インド地域ユース代表 ディヤ・ビジャヤン



文房具の分配ののち、子どもたちに話をするユースメンバー

第19回世界YMCA協議会
2018年7月8～14日
タイ・チェンマイ
登録受付中

**#YE4
GOOD**

**19TH YMCA
WORLD COUNCIL**

CHIANG MAI, THAILAND

8-14 JULY, 2018

Registration is now open
Details on: www.ymca.int

地球の温暖化ではなく、 地域の公害について話そう

イギリス・ケンブリッジ大学のエネルギー政策研究者・テ・ホーン・キムさんによると、公害に焦点を当てることは、実際、環境についての議論を巻き起こし、ある種の草の根的な反応を奨励するとのこと。この記事は、トランプ政権がパリ協定から脱退したことを背景に書かれたものです。以下は(8月23日付)Down to Earthからの抜粋です。

2016年にエール大学が行った世論調査において、70%のアメリカ人が地球温暖化が起きていることを信じており、58%が温暖化はアメリカ人にとって有害であると信じていると言っています。しかし、実際に温暖化が個人に影響すると信じているのは40%しかいませんでした。

今年、ピュー・リサーチ・センターが行った他の調査では、76%が、テロ対策をトランプ政権の最優先事項にすべきであると答えています。地球温暖化について言及したのは、38%に過ぎませんでした。これらの調査の結果からみると、アメリカ人は地球温暖化に関心があり、もっと多くのことをして欲しいと思っているのかもしれませんが。

一つの現実的な短期の解決策は、世論を「気候変動」から「公害」へと移行することかもしれません。公害に焦点を当てることには、地球温暖化よりも世論を動かすかもしれない、3つの利点があります。

氷河が溶けているという事実は警戒すべきかもしれませんが、私たちのほとんどが日常的に経験することではありません。例えばカリフォルニア州サクラメントでは、すでに暑く、エアコン付きのビルに逃げ込んでいる人にとって、気温の上昇が気になる理由があるのでしょうか？

一方、公害は、日常生活の中で体感でき、様々な不快感の原因となる可能性があります。例えば、地球温暖化に興味の無い、同じサクラメント市民は、地域の都市の川沿いの景観整備道路の公害には関心があるかもしれません。さらに、年間何百万人もの人が、空気の公害によって亡くなっているというのも、地球の気温が急速に上昇しているという抽象的な主張とは異なって、より個人的なレベルでのつながりが生まれます。

人々は公害を心配している

ピュー・リサーチ・センターが行った同じ調査で、55%のアメリカ人が、犯罪や貧困と同じくらい「環境」が大切と回答しています。(これらは、軍隊、移民、「地球温暖化」を優に上回っています。)彼らは、地球の気候変動から起こる現象で眠れなくなるよりも、自分

が住んでいる地域の空気や水の質を心配しているようです。

また、もう一つ環境に関して勇気づけられることは、今年、センター・フォー・アメリカン・プロGRESSが行った調査で、トランプ氏に投票した人のうち3分の2が、アメリカの国営林や公共の土地を私有化したり、売却したりすることに反対しているとわかったことです。これが世論をまとめるほど強い土台となるかどうかはわかりませんが、いずれにしても、地域の環境に焦点を当てることはよいきっかけとなります。あなたが専門家

公害に焦点を当てることは、実際、環境についての議論を巻き起こし、ある種の草の根的な反応を推進することになるかもしれません。環境問題や地球温暖化についての議論は、往々にして科学者や政治家が支配してきました。従って、一般市民は、このような問題は、事前の知識がなければ参加することができない科学的な議論の問題と信じていたかもしれません。結局、個人は、二酸化炭素の濃度や氷河の融解の議論にどのような貢献ができるでしょうか。もし科学者が指摘しなかったら、これらが問題であるということさえ知らなかったかもしれません。

それに対して、環境汚染の影響を感じるには、専門的な知識は必要ではありません。一般市民が、大気科学を理解しているように振る舞う必要もなく、改善措置や提案を発表することができます。さらに、もし焦点が地域の公害であれば、改善措置は地域レベルで取られることになるでしょう。

この戦いにおいては、一般市民が科学者の一番の同志となるべきです。トランプ氏の気候に関する愚かな行為に反対して、どのような方法であっても、一般市民をどのようなことばや論点で巻き込むかが、この問題に対応しようとしている科学者や政治家にとっての最重要課題です。





各地域の多様性を賛美して

地域大会は、奇数の年に開催されます。以前、アフリカへの訪問(5月に開催されたアフリカ地域大会を含めて)について皆様にお伝えしました。7月1日から8月7日まで、3つの大陸において、4つの地域をカバーしている3つの地域大会に参加しました。

ヨーロッパ地域大会は7月2日から8日まで、ラトビアのツェーシスにおいて開催され、約200名の熱心な参加者が集まりました。素晴らしい講演者も招かれ、民族音楽と踊りで楽しませていただき、YMIのプログラムやプロジェクトについて刺激的な議論が行われ、ツェーシスの魅力を体験できる幾つかの観光コースも設けられました。さらに、初めてワイズメンオリンピックが開催され、多くの異なる国からのメンバーで構成されたチームが、10の様々な競技で競い合い、笑いある、楽しい時間を過ごし、絆を深めることが出来ました。



ツェーシスにて、日差しの中で楽しみました。

特筆すべきことがあります。ヴァイラ・ヴィーチェ・フレイベル元ラトビア大統領が参加され、ご自身のYMCAとの関わりについてお話いただいたのです。ヨーロッパでは難民として、カナダでは若い頃移民として過ごされた頃のお話を詳細に語っていただきました。彼女は私達YMIメンバーに対し、緊急のニーズがどこにあるのかを明確にして、困っている人々に奉仕する必要性についてお話いただきました。

タイのチェンマイでは、7月20日から23日まで、新たに統合されたアジア太平洋地域(ASP)の第1回地域大会が開催されました。同地域の多くのメンバーを代表して、約300名が参加されました。大会では、素晴らしい講演や、YMIやYMCAに関するフォーラムもあり、そこではプログラムやプロジェクトに関して、多くの良いアイデアが出されました。チェンマイの文化を紹介する素敵な観光コースも用意され、地域の美しい文化を感じることができました。

参加者全員の心をつかんだのは、チェンライから来た子供たちでした。彼らは口蓋破裂の治療のため、まさに人生を一変させるような手術を受け、術後は、言語療法を受けたのです。その子供たちは歌や踊りを披露して、治療を受けたことへの感謝の言葉を一人一人述べてくれたのです。(このプロジェクトに関する詳細は2017年6月発行のIP eNEWSをご参照下さい。)

国境なき友情

アメリカでは、アメリカ地域とカナダカリブ海諸国地域の合同地域大会が8月4日から6日まで開催されました。この大会の前に、国際議会(ICM)が行



チェンマイにて:直前国際会長とアジアの様々な区のリーダー達)

われたのですが、こちらに参加された殆どの方々が、小規模な地域大会に、引き続き参加されました。100人余りの参加者、そして10人の若者が集いました。彼らは、ラスベガスの中心部にて奉仕活動などの独自のプログラムを展開しています。

この地域大会に先立ち、グランドキャニオンへの観光旅行も大会プログラムに組み込まれていました。YMIの異なる分野に関する素晴らしい分科会や、歌や踊り、ものまね芸や手品などのエンターテインメントもありました。スクエアダンスには、あらゆる年代の方々、初心者もベテラン(プロ級)も参加し、大いに楽しみました。



米国ラスベガスにて アメリカ地域-カナダ・カリブ海諸国地域合同地域大会の懇親会)

8月8日に帰宅しましたが、幾つもの大会に参加したため、暫くは緊張をほぐす時間、そして振り返る時間が必要でした。数週間経った今、YMIは世界各地において、非常に活気がある

ということ、皆さんに確信を持ってお伝えします。各地域のメンバーは様々な課題に直面しているものの、今なお、それぞれのコミュニティにおいて生活が苦しい人々や恵まれない人々を支援し続けています。

地域大会に参加することにより、会員は旧交を温めたり、新たな友人と出会ったり、互いに共有し学び合うことが出来ます。私が参加した大会は開催場所や主催クラブも異なるのでそれぞれ特色の違いはあるものの、全てが刺激的で充実したイベントで、笑いや情熱に満ちたものでした。私は、全ての会員に、ご自分の区の大会および/または地域の大会に参加されることをお勧めします。必ずや、私たちの、この素晴らしい運動に関与できているという特権を実感できるからです。

直前国際会長 ジョアン・ウイルソン

バラントイン賞受賞者

アメリカ地域のワイズダムの長老 ウェイン・スミス氏

ウェイン・スミスさんは、アメリカにおけるワイズダムの最古参者でいらっしゃいます。8月上旬にラスベガスで開催された、アメリカ地域-カナダ・カリブ海諸国地域合同地域大会にて、ジョアン・ウィルソン直前国際会長から「2017年バラントイン賞」を授与されました。私は光栄にもウェイン氏と朝食を共にすることが出来ました。その際に彼の長年にわたるワイズダムへのご奉仕活動の歴史をまとめようとしたのですが、ウェイン氏は、冗談まじりに、YMIリーダーとして、今までずっと賞を授与する立場だったわけで、受賞するのは今回が初めてだとおっしゃっていました。

ウェインさんは生涯にわたり、教師として、また教育行政に携わってこられました。ワイズダムとの出会いは、ヤキマ・ワイズメンズクラブ(米国ワシントン州)に1960年に誘われたのがきっかけでした。当時、彼は26歳で、小学校の教師になって2年程経った時でした。スミスさんは間もなく、クラブに深く関わられるようになり、書記、副会長、そして会長になられたのです。1963年、セントラルワシントン部の部長に就任され、地域奉仕事業主任も兼任されました。その後、区の副理事に選任されました。1965年までヤキマに住み、教師を務め、その後カリフォルニア州シムバレーに移りました。

そこでもワイズメンズクラブに加入し、間もなくその地域初のYMCAを設立して理事会のメンバーになりました。その後、夫人のエルザさんとエジプト・アレクサンドリアに移り、5年間、高校で歴史を教え、その後シュッツ・アメリカンスクール of the副校長を勤められました。

1970年にアメリカに帰国し、スミスさんはシアトル・ダウントウンワイズメンズクラブに入会され、引き続きワイズと関わられました。1972～74年、国際議員として、当時の運動に大きな変化をもたらすための一翼を担いました。1974年～76年、当時のアメリカ地域評議会に奉仕され、アメリカ地域の発展に尽力されました。

1991年、38年間勤められた教育界からリタイアされました。1991年の夏、25年間連れ添った奥様のがんでお亡くなりになりました。1996年12月、同じ時期に未亡人となられたグレースさんと再婚されました。お二人とも、教育行政からリタイアされ、現在はグレースさんが所有する果樹園を経営されています。2000年～2005年、再び教育に携わることになり、2つの大学において教師の監督を担われました。1997年には、7月から3年任期の国際議員に選任されました。任期中、1998年～1999年にアメリカ地域会長を務められました。

現在は太平洋北西部区の表彰、LTの事業主任を務

められ、元区理事、元部長としても活躍されています。彼はアメリカ地域の財務担当もされ、前国際ヒストリアンです。

コシー・マシュー

ウィルソン直前国際会長とウェイン・スミス氏



協定締結

YMI – YMCA 間の区レベルでの協力

ラテンアメリカ&カリブ海諸国 YMCA 同盟(LACA/ALCACJ)は、地域内のYMCA間のつながりを強化し、協力を促進しています。同同盟は、各国のYMCAがそれぞれの使命を果たし、より多くの人々、特に若者を巻き込むことが出来るように、YMCAを強化する役割を担っています。

昨年9月、ウルグアイで、LACAのアントニオ・メリノ総主事は、ワイズ・ラテンアメリカ区のロザンナ・クロチ・レエス理事と会い、YMCA—ワイズ間の相互支援について話し合いました。そして、区レベルでのパートナーシップの原則に関する協定書に署名し、合意内容を促進し、両者の活動についてコミュニケーションを密にしていくことで合意しました。



写真:LACAのアントニオ・メリノ総主事(左)、ラテンアメリカ区のロザンナ・クロチ・レエス理事(右)、元国際書記長のロランド・ダumas(中央)の出席のもと、協力関係の原則に署名した後に撮影

ベテランワイズが「変革」について考える



ロブ・グリーン(*)

世界の多くの地域でメンバーの減少が続く中、この記事をあえて再掲します。メンバーの維持とエクステンションについて数多くの議論がなされる中、高齢化が大きな原因と指摘されており、コミュニティ活動の新しい開発と入会候補者を惹きつける戦略を考え出さなければなりません。(編集長)

10週間の留守の後にクラブに戻った私は、クラブ内に起こった沢山の变化をよく知っています。変化に対して脅威のように見えるのは人間の自然な反応であり、それに反発することは珍しいことではありません。私たちは、いつもと同じやり方、同じ行動パターンや環境は心地良く、そしてそれらが急に変わったときは、異質で馴染みのない環境から挑戦されていると感じることはノーマルなことです。

エフェソスの居住者であったギリシャの哲学者、ヘラクレス(Heraclitus B.C.535-B.C.475)は、「変化以外、永久に残るものは何も無い」と言っています。

ほんの少しの間だけでも、我々もその一部であることが避けられない全体像を見れば、私たちは信じられないほど変化の時代に生きていることがわかります。1940~50年代に子供であった私を含め多くの人達は、月曜の朝礼でこんな事を言ったのを記憶しています、「私は神と自国を愛し、国旗を敬い、王に奉仕し、私の両親、教師、そして法律に心から服従します」と。このことはもはや小学生に期待するのは相応しくないと考えられます。

1970年代のベンディゴYMCAでは、毎週末、トム・トゥイド(長年Yの総主事を務めた)は、土曜モーニング・ボーイズ・クラブに多くの若者達を集めました。当時のベンディゴ Yはバスケットボール、バレーボール、ボーイスカウト、陸上競技、バイキング、その他いくつかの活動の場でした。「Y」はベンディゴの若者のために様々な活動の場を提供して来ました。しかし、近代的な施設が都市近郊に建設されたので、今までの活動の多くはこれら

の会場に移ってしまいました。YMCAスタジアムは十分に活用されなくなり、都市の若者に対するYのサービスは次第に大きく変化しました。

1960、70、80年代、私たちのクラブには50代と60代の会員がいて、非常に大きなプロジェクトに取り組みました。それはほとんどすべての労働を会員が担い、Yに家とスカッシュコート2面を作るというプロジェクトでした。当時クラブでは、会員の個人的な成長に重点を置いていました。会議の進行はフォーマルで厳格でした。長年にわたって徐々に変化した末、今のクラブは、よりカジュアルなものになっています。

より広い場面で、特に第2次世界大戦後にオーストラリア人や他の地域、特に先進国の職場に大きな変化が生まれました。多くの女性が労働力に参入し、その結果、家族はますます時間に余裕がなくなって来ました。奉仕クラブに所属する時間を費やすことが、容易ではなかったため、会員を募集することが困難になり、一部の奉仕クラブが解散しました。今日では、退職した高齢のオーストラリア人が、さまざまな状況の中で自分の時間と才能を活かしてボランティア活動に従事するという変化が見られます。

そうすることで、クラブの期待や資金調達活動にそれほど縛られることがなくなっています。

世界の状況を見ると、世界中の多くの国々で、移住が大きな変化をもたらしました。世界中で約2億3千万人の移住者が移住先の国々に彼らの個人的、宗教的信念、才能、スキルを持っていきました。人口構成におけるこの多様性は、世界中の多くの国々に考え方への大きな変化をもたらしました。(次ページ下段へ続く)



ワイズメンズクラブ貸し切りバス
「この車は全てのトイレに停まります。」

(*)注

ロブは、1974年以來、オーストラリアのベンディゴクラブのメンバーで2回に亘ってクラブ会長を務めた。直近は2007-2008年度。現在彼は、クラブブリテン編集者で、この記事は、ブリテン2017年9月号の記事を少し簡略化したものである。



ワイズメンズクラブ国際協会(YMI)は 新しい国際書記長の応募を受け付けます。



YMI は、国際的な、非政府、非営利の地域奉仕団体です。95年にわたり世界のYMCA、そして、各地域社会と連携してきた歴史があります。国連の経済社会理事会の特殊協議資格を有しています。

YMI は、現在世界 60 カ国以上に 25,000 人の会員を有しています。国際本部は、スイス・ジュネーブにあり、そのサテライトオフィスは、タイのチェンマイにあります。YMI は、イエスキリストの教えに基づき、世界のどの宗教を信じる者も会員として受け入れています。人種、信条、出身国の違いにより、会員になることを拒否されることはありません。もっと詳しいことは www.ysmen.org をご覧ください。

YMI は、活発な奉仕活動を通じて、リーダーシップを開発、助長、供給して全人類のためより良き世界を築くべく尽力しています。

- ✓ 選出された候補者はタイ・チェンマイのサテライト事務所に常駐します。
- ✓ スイス・ジュネーブの国際本部の管理運営の責任も持ちます。
- ✓ 勤務は 2018 年 10 月に始まり、当初 4 年間の責任を負います。さらに 4 年間の延長の可能性もあります。
- ✓ YMI の人事委員会の規定に基づき給与、諸手当、さらに、引越費用、医療費、子弟の教育費、などタイにある国際機関と同等の諸手当が支給されます。
- ✓ YMI 国際会長を経由して国際議会に報告の義務があります。

さらに以下が求められます。

- ◆ YMI の運動促進のために広範囲に旅する意欲と能力が求められます。
- ◆ 全世界の様々な宗教、言葉、文化的背景の者による国際団体の人々と調和して活動することが求められます。

スケジュール

- ◆ 2017.12.15: 応募締め切り: www.ysmen.org/vancancies で申請してください。
- ◆ 2018.4 月前半: 応募者は、配偶者同伴にてタイ・チェンマイにて面接があります。
- ◆ 2018.5 月前半: 選出された候補者に連絡があります。
- ◆ 2018.8 月: 選出された候補者は、韓国・ヨスにおける国際議会、国際大会に出席します。
- ◆ 2018.10.1: 選出された候補者は、この日からタイ・チェンマイにて実務に従事します。

さらに情報が必要な方は、www.ysmen.org/vancancies をご覧ください。

ベテランワイズがYMIの“変革”について考える

(前ページからの続き)

一般に外国からの移民は、その国の人々の仕事を奪い、経済を破壊するといった間違っただけの通念が伝わっています。しかし、いろんな事例からこれは間違っただけの考えであることが分ります。アメリカのGoogle, PayPal, eBay, Yahoo!などの企業は、海外からの移住者が起こした企業です。シリコンバレーの“起業”の半分以上、特許の半分以上が優秀な海外からの移住者によってはじめられました。彼らは人口のわずか15%を占めているにすぎません。

Willis Harmanは彼の著作Global Mind Changeで、社会の“大きな根本的変革”は、その国の政府や、紛争を通じてなされるのではなく、膨大な数の人々が彼らの考え方を変えることによって起こされる、と指摘しています。このような、考え方の変革は、ごく限られた想像力のある人々—具体的には、卓越した哲学者、宗教的思考家、科学者、芸術家—によってもたらされる産物です。

“変革”は常に刺激的挑戦です。人々を引き裂き、分断を惹き起こすのではないかという証拠の無い通説をもたらす可能性があります。しかし、変革の過程で、それは前向きな正しい選択である可能性を認識する必要性があり、変革を試みる価値は充分あります。もう一つの古い譬えがあります。それは“風呂の水と一緒に赤ん坊を流してしまうな”、大事なものを無用なものと一緒に捨てるな、という譬えです。ここでいう私たちの“赤ん坊”とは“コミュニティに対する奉仕”です。コミュニティへの奉仕は過去永い年月にわたり計り知れない恵みを私たちの運動にもたらしてきました。

会員の平均年齢が80台を超えた今、Book Project (豪州でのワイズの奉仕事業)やクリスマスツリーの販売は、ワイズの会員にとって肉体的に大変厳しくなってきました。

しかし、私たちワイズメンが“変革”を前向きに捉えて前進し、常に革新的であれば、来るべき時代にも私たちは“コミュニティへの奉仕”を続けることができると確信します。



軍事的対応の代案

この数ヶ月の間に世界中で罪のない人々が続けて大量殺戮された事から、これらの大量殺戮を引き起こしたと考えられる犯罪集団に対して更なる軍事攻撃と脅しによる対応が見られました。アメリカ合衆国において、国内の殺人行為の大部分がイスラム教徒によるものではないという事実にもかかわらず、一部の人は、入国を希望する全てのイスラム教徒の入国を禁止するよう求めています。「他者(よそ者)」に対する反対の声は、益々大きくなり、辛らつになっています。

今や我々に加えられた害悪に対しても、それ以上の害悪で相手に報復する事が、ほぼ日常化しているように思えます。しかしながら「敵」に対する全てのこれらの軍事的対応は、ほとんど成果を挙げていないようです。事実、軍事的対応を取ることで分裂と怒りと憎悪を生み出そうとしている輩の術中にはまっていると指摘する評論家もいます。もしそれが真実なら、それらの輩が我々にいかに行動し、いかに生活するべきかを教えることを許容していることとなります。間違いなく、我々は、より良い教師を見つける必要があります。

最近、Saegilキリスト教社会・文化研究所の所長 Kyeongil Jung 博士の「病める世界の魂の友」と題する講演を聴く機会がありました。博士は、多くの極めて有益な洞察に富むお話をされましたが、現在の世界で極めて多くの苦悩を生み出している過激思想の類にいかに対処すべきかについての提案は、特に注目になります。

我々の世界に存在する様々な形態の苦しみを目の当たりにして、博士は、宗教的過激思想・暴力行為に対して3つの対応策を提案しました。博士は、宗教的過激思想・暴力行為は、すべての宗教において生まれうるので、我々全員でそれを封じ込めなくてはならないと明言しました。彼の提案した3つの対応策とは:

1. 敵対心に対するもてなしの心

この点に関して、彼は、敵対心は、他者に対する恐れから生まれ、その恐れは他者についての無知から生まれると強調しました。我々は知らないものや理解できないものについて恐怖を抱くのです。

もてなしの心について言うと、我々は、部外者から進んで新しいものや良いものを学ばなくてはなりません。知らない人や恐れを抱く人に対して進んで自宅を開放し、心を開かなくてはなりません。このもてなしの心を通して敵対心を克服できるのです。

我々は、また、この相互に依存している世界においては、もてなす側(主人)ともてなされる側(客人)の両方の役を担うことを認識しなくてはなりません。部外者(客人)をもてなす必要があるだけでなく、部外者(客人)によって、もてな

してもらい心構えができていなくてはなりません。これが本当のもてなしの心であり、我々が信仰している全ての宗教が教えている事なのです。

2. 傲慢に対する謙遜

傲慢とは、自我と自らの信仰に関する過剰な自信と意識を意味します。傲慢さは、平和裏に共存し、互いに尊重しあって生きる為に我々に必要な謙遜さの大きな障害です。我々は皆、真理を捉えていない事、むしろ真理が我々を捉える事を認識しなければなりません。我々は、進んで「他者」から真理を学ぶ心構えができていなくてはなりません。信仰の違いを越えた友情関係の目標は、同意(考えの一致)ではなく理解(違いを認めること)なのです。真の対話を通して、例え完全に同意しなくても、互いを理解することを学びます。自分と異なる人達と対話する為には、謙遜さが必要です。

3. 無関心に対する共感

Kyeongil Jung 博士は、我々の体の一部に痛みを感じた時には、その部位が「我々の体の中心」になる実例を挙げて説明しました。従って同じ様に世界の苦しむ場所が、我々の宇宙の中心になるはずで、それが真の意味の共感です。

時として我々は、平和を手に入れようと瞑想や祈りのような精神的行為にのみに焦点を置く、と博士は力説しています。しかしながら社会的行為を伴わない精神的行為は、空しい行為です。精神的行為は我々を宇宙の中心一苦しみと痛みを感じる部位に我々を引き寄せなければなりません。

もてなしの心、謙遜、そして共感が宗教的過激主義・暴力を解決する3つの対策なのです。我々の生活は、我々の全ての言葉と行為において、もてなしの心、謙遜、共感を実践する事に焦点を置くべきなのです。

★マックス・エディガーは、カンボジアで設立された「平和の学校」の運営責任者です。www.mennolink.org/peaceアメリカ合衆国メノナイト教会平和・正義支援ネットワーク・ネット出版、ピースサインズの許可を得て転載

YMI ワールド誌

クラブの指導的立場にあるメンバーは、実施した活動に関する記事を1枚以上の高解像度の写真と適切な短い説明文を付けて国際本部に送られることをお勧めします。記事は、150語(英語)以内でお願いします。読者の皆さんもグローバルな我々の運動に関する関心事について、ご意見や原稿をお寄せ下さい。

記事と写真をwww.ysmen.org/ymiworld までお送り下さい。次号掲載記事の提出締切日:2017年11月30日





73rd Y's Men International Convention Yeosu Korea

- 2018. 8. 9(Thu) ~12(Sun)
- Expo Convention Center Yeosu Korea

Youth Convocation

2018. 8. 6 (Mon) ~ 12 (Sun)
Jeonnam University Yeosu Campus



Welcome to Yeosu Korea! Yes, We Can Change!

第 73 回ワイズメン国際大会
韓国・ヨス (麗水)
2018. 8.9(木) ~ 12(日)
Expo コンベンションセンター

ユースコンボケーション
2018.8.6(月) ~ 12(日)
チョンナム大学・ヨスキャンパス